

令和5年度 学校評価対応表

本年度の重点目標	評価指標	学校経営の重点に関する成果(○)と課題(●)+K2:K13			学校関係者評価 意見・感想	改善案			
		教員	児童	保護者					
1 【自己肯定感の育成】	全校朝の会により、みんながなかよくなっている	100%	97%	100%	<p>重点(1)自己肯定感の育成</p> <p>◎取組1「全校朝の会」 ○全校で朝の会を行うことで一体感が生まれる。高学年の動きや発言態度を、低・中学年の児童が見てお手本にしている。 ○全校児童の健康状態を全職員・全児童が把握でき、声かけにつながりよかった。 ○「きずなくんコーナー」では、友達の良いところ、よい行動、がんばりを全校の前で発表することで、その行いが全校に広がる。自分では当たり前だと思っていることでも、友達が発表することで、自分のよさに気付くことができる。「きずなくんコーナー」を継続していることが、児童の自己肯定感を高める要素になっている。</p> <p>◎取組2「得意技披露会」 ○回数を重ねるごとに自己を見つめる力(目標設定能力等)が身に付いてきている。 ○がんばりを認めてもらえる雰囲気が出てきた。(友達の拍手や励ましの声) ○1人でも自信をもって披露することができた児童が増えた。 ○人権週間の中で第2回得意技披露会を行ったことで、児童がよりねらいを意識することができ、自分や友達の良さや頑張りにつなげることができた。 ○自分ができることが増えるたびに、披露して見てもらいたいという気持ちが浸透してきている。</p> <p>◎取組3「人間関係作りの充実」 ○かめっ子タイムで自分のことを話したり、友達の話を聞いたりして、自己理解・他者理解につながっている。 ○いいところ見つけでは、自分のよさについて新たな気づきが生まれ、自己肯定感の向上につながっている。 ○下級生は上級生のふるまいを見て、規範意識の向上につながっている。</p>	<p>・得意技披露会で、子供たちの取組について友達からの助言などを伝える時間を取り入れてはどうか。 ・ほめることはとても大切である。団体競技等で大切になってくるのは、尊敬や認め合う気持ちであるので、良い所を認め合うことは大切。</p>	<p>【自己肯定感の育成】</p> <p>◎取組1「全校朝の会」 ・来年度も全校朝の会のすばらしさ、きずなくんコーナーのよさを児童に繰り返し伝え、認めることで、継続していく。</p> <p>◎取組2「得意技披露会」 ・自分を振り返る機会を設け、振り返りカードなどの形で残していけるとよい。</p> <p>◎取組3「人間関係作りの充実」 ・縦割り班遊びが計画的にできるとよい。企画する学年を毎回変えて、集団を動かす経験を積ませる工夫もできる。</p>		
	自分や仲間を大切にしている気持ちがある	100%	94%	91%					
	自分や仲間を大切にしている支持的風土の集団になっている	100%	94%						
	自己肯定感や自立心が高まっている	100%	97%	94%					
	一人一人に適切な支援をしている	100%	100%						
2 【学力育成】	学び方が身に付けている	100%	97%	82%	<p>重点(2)学力育成</p> <p>◎取組1「かめっ子スタンダード学習」 ○めあて・学び合い・ふりかえりのある学習を展開することができた。 ○複式学級でない低学年の学級でも、教員が学習の流れを示し、学習リーダーが進行役とする授業を展開できた。 ○中学年が高学年の学習の様子を見学したり、低学年と中学年が擬似的な複式学級をつかった学習をしたことができた。 ○全学級が研究授業を公開し、子どもが主体的に学びを深める授業づくりを目指した。また、教員が互いの授業を見合う場となり、指導力向上につながった。</p> <p>◎取組2「読書活動の推進」 ○朝読書→月曜日の朝読書は時間を確保できた。月曜読書の習慣が身に付いている。 ○図書館活用→物語文の学習時に学びのサポーターによるブックトークを聞いたり、並行読書がしやすいよう学級図書入れ替えをしたりするなど、図書館活用の実践を全校で取り組むことができた。また、図書委員会と学校司書が連携し、おすすめの本や人権の本など、幅広い本を紹介できた。 ○本に触れる機会の保証→教員やあのおねさんによる絵本の読み聞かせの時間を確保した。学びのサポーターから、おすすめの本の紹介のお便りを定期的に発行した。お話し前を学期に1回設けることで、より多くの本に触れることができた。図書委員会が考えたイベントで、様々な本を紹介したことで、新たな本に出会う機会ができた。 ○家庭での読書活動→PTA研修部の企画で「輪読」を2学期に行い、同学年の親子が同じ本を読む機会を設けた。</p> <p>◎取組3「基礎基本の徹底」 ○いろいろな取組を組織的に行うことができた。 ○全校漢字・ローマ字テストの学習に進んで取り組む児童が多く、計画を立てて学習する力を伸ばすことができた。 ○「計算の日」とすることで、全校で基礎基本の定着に取り組むことができた。低学年や高学年を中心に、九九以外の取組も充実してきている。 ○授業や家庭学習の中で、国語辞典やブックPCを活用した意味調べを行うことができた。 ○「お話しキャッチ」の取組を継続してできた。メモをとったあと、メモを見合う場を設けている学級もあった。国語で学習したメモの取り方を生かす場になった。</p>	<p>・読書についての項目は毎年低い保護者評価となっている。保護者目線であれば、家庭で読書をしている姿を見ていなければ、悪い評価になってしまう。数字に振り回されないまうがよい。長い目で見て、読書指導を続けてほしい。あわせて、読書だけにこだわらず、子どもの興味・関心を伸ばしてやれるとよい。 ・家庭での過ごし方の問題もある。習い事やスポーツなど忙しい子供も多い。読書については家庭で時間が取れない事を学校で補填してもらっている。 ・本を静かに読むことも大切だが、中には声に出して読みたい子もいるので、個別の配慮があるとよい。</p>	<p>【学力育成】</p> <p>◎取組1「かめっ子スタンダード学習」 ・今年度の取組を継続していく。</p> <p>◎取組2「読書活動の推進」 ・本を読む児童と読まない児童の差があるため、本の借り替えを行う時間を意図的に確保する。 ・保護者の方が思いをもって「輪読」に取り組めるように、PTA研修部が選書に関わることができるとより良い。 ・家庭での読書が浸透していないので、親子読書、読み聞かせ等、図書館だよりや学級だよりなどで啓発する機会を増やす。</p> <p>◎取組3「基礎基本の徹底」 ・ステップアップタイムのねらいを教職員が再確認し、方法を見直す。 ・「お話しキャッチ」の後、分かったことを交流する時間を確保する。 ・担任以外の職員も、より指導にあたることのできるようになる。(ステップアップタイムやチャレンジタイム)</p>		
	友達の発表を聞いて、自分の考えを深めて発表している	100%	91%						
	進んで話し合いを行い、思考力・判断力・表現力を高めている	100%	94%						
	進んで本を読んだり、本を活用して調べたりしている	89%	88%	65%					
	漢字・計算の基礎学習が定着している	100%	100%	88%					
3 【健康づくり・体力向上】	生活リズムやメディア接触時間に気をつけて生活している	100%	84%	88%	<p>重点(3)健康づくり・体力向上</p> <p>◎取組1「よりよい生活習慣の形成」 ○学校保健委員会(協議)を年度初めと終わりに実施することで、学校医や保健師の専門的な立場からの助言や、保護者の意見を聞くことができた。また、県の「子どもの健康づくり事業」を利用し、専門家による講演(島根の子どもとメディア研究会代表 大岩睦子氏)では、過度なメディア利用による心身への影響についてお話しいただき、親子で考えるきっかけになっていたため、児童・保護者対象の講演は来年度も授業公開日にあわせて実施したい。 ○生活チャレンジ週間前に、3・4年生で1時間事前指導を実施し、意欲が高まった。 ○お弁当の日は年3回で実施。4校時の学活で弁当を発表する時間をなくしたが、子供のモチベーションは高く、自分の力でお弁当づくりをしている。栄養教諭の事前指導も効果的だった。 ●歯科保健について学年に応じた指導を実施できなかった。</p> <p>◎取組2「かめっ子マラソン」 ○走った距離を歩数計で測定し、マラソンカードに記入した。 ○いこいなわとびでは、なわとびカードを活用することができた。ロープジャンプでは結果を記録して児童の意欲向上につながった。 ○体育授業、体育的行事を通して、多様な運動を経験させることができた。 ○来年度から実施予定の重点運動(逆上がり、25m完泳、跳び箱等体力テストの結果をふまえて)を6年生だけでなく、各学年の発達段階を考慮して設定した。 ●本校プール使用の影響を受けて今年度から三成運動公園プールで水泳授業を実施。人員の配置など、改善の余地がある。 ●新体力テストの結果から50m走(スピード)に課題が見られた。</p>	<p>・かめっ子マラソンの取組はとも良いが、長距離走が苦手な子供にとっては、意欲が高まりにくい。記録の伸びを評価するようにしてほしい。また、長距離に偏らず、多様なスポーツに関わる取組があるとよい。</p>	<p>【健康づくり・体力向上】</p> <p>◎取組1「よりよい生活習慣の形成」 ・生活チャレンジ週間や、生活習慣を意識している家庭は少しずつ増えているが、生活チャレンジの点数の伸びにはつながっていない。今年度は睡眠時間よりメディアに課題が見られた。チャレンジシートを最大限、有効的に活用していくために、児童への課題意識のたせ方や啓発活動の内容に工夫が必要である。児童会と連携した取組も考えてく。 ・雲南警察と連携したメディア安全教室を実施する。 ・歯科保健の指導を実施学年を決めて、実施する。</p> <p>◎取組2「かめっ子マラソン」 ・かめっ子マラソンは年4回実施予定だったが、9月は高温のため児童の体調を考慮して中止した。来年度からは9月はずらして、年4回で計画する。 ・体育授業において、短い距離でのダッシュ及び変則ダッシュ等を積極的に取り入れ、児童のスピード向上に努める。 ・委員会活動等を活用した外遊びの奨励。</p>		
	運動好きな子が育っている	100%	94%	73%					
	ふるまいがよくなっている	100%	97%	94%					
基盤	人権・同和教育の充実	100%			<p>○生徒指導職員会議で定期的に児童の情報を共有することで、全職員での指導に生かすことができた。 ○9月に昨年度までとは違った観点で講師を招聘し、人権・同和教育に関する職員校内研修を行うことができた。</p>	<p>・たより、ブログだけではなく、「ジョーホー奥出雲」の利用も考えられる。</p>	<p>・入学説明会等において、特別支援学級についての理解啓発を図る説明を入れる。 ・PTA人権・同和教育研修会が中止となってしまったが、次年度は内容についてPTAの要望をもとに実施することで、教職員や保護者の人権意識の高揚を図る。</p>		
	ふるさと教育の充実	100%	97%	97%				<p>○地域連携については、積極的に行った。 ○中学年の総合的な学習の時間では、多様な人材活用を行うことができた。 ○国語科「町の幸福論」や低学年の生活科など、亀嵩公民館や亀嵩地区小さな拠点づくり等の組織と連携を図った活動を多く実施することができた。</p>	<p>・2年後の統合までのところで児童が亀嵩を知り、人のかかわりをさらに深めることができる機会の確保を行う。 ・統合最終年度は地域のよさや感謝の気持ちを伝える場がもてるよう準備を行う。 ・教職員の地域教材の開発や研究ができる機会を確保する。 ・各種情報発信の継続を図る。</p>
	積極的な情報発信	100%		97%					